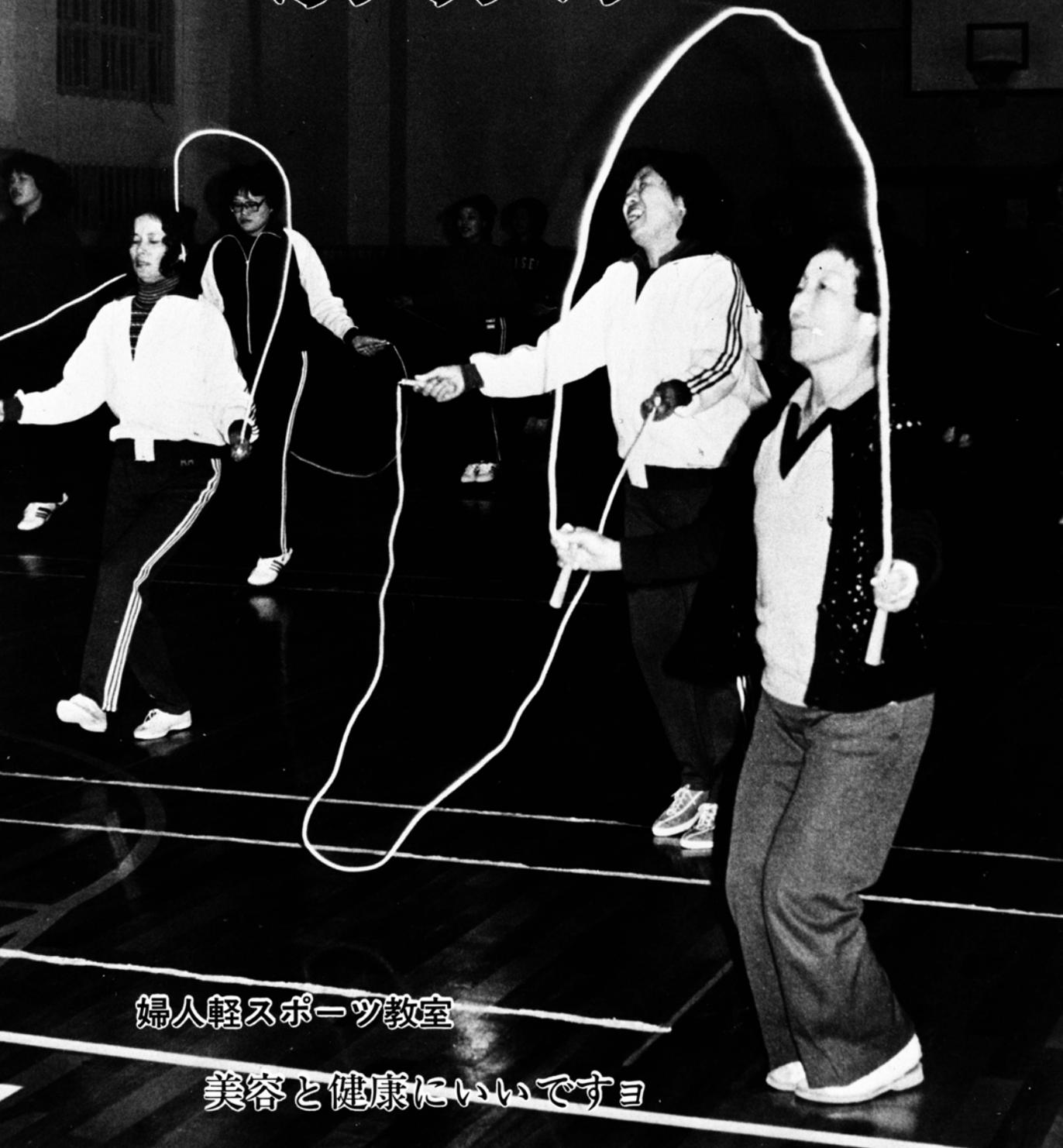


市の政 おおの

53. 3. 1

No.286



婦人軽スポーツ教室

美容と健康にいいですよ

「美容と健康にすごくよい」と好評の婦人軽スポーツ教室が、ことしも2・3月の毎週火曜日、有終会館で開かれています。

教室開きの2月7日には23～52歳の婦人33人が参加、上体起こし、担

ぎっこ、しゃがみ飛び、なわ飛びなど筋肉のバランスをとるトリム運動に汗を流しました。絶えず明るい笑いにあふれ、ストレスも解消。「わたしなんだか体がほぐれてきたような気がするワ」とにっこり。

この教室は「いつでも、どこでも、だれでも、生活の中にトレーニングタイム」を目指し、3月は7・14・21・28日に開かれます。今からでも参加出来ますので、あなたもぜひおいで下さい。



もうすぐ「入学、入園」

新入学、入園まで後1ヵ月、子供たちの胸弾む新しい生活が始まろうとしています。でも、この時期に多いのが幼児や児童の交通事故。慣れない通学、通園である上に、暖かい陽気から自動車の運転者の気持ちもつい緩みがちになります。子供を悲惨な交通事故から守るため、運転者は安全運転に心掛けることはもちろんのこと、家庭では子供にしっかりと交通マナーを身につけさせましょう。

幼児の交通事故ゼロ願

2月、300人の親子大会

「幼い子供の交通事故ゼロ」を目指す「幼児交通安全親子大会」が、2月8日市民会館で市内の幼稚園、保育園の親子約300人が参加して開かれました。

スマイル

「受験シーズン」

当分洗剤は使わないことにします -ママ

交通安全講話や体験発表の後に「親子の交通教室」が開かれ手旗信号、正しい横断歩道渡りや交通標識拾い——などのゲームが行われ、子供たちは遊びをとおして交通の知識やマナーを楽しく学びました。

最後に「交通弱者である幼い子供



「交通標識拾い」のゲームを楽しむ親子

を交通事故から守る」大会決議がなされ、2月から始まった毎月第2木曜日を「幼児を交通事故から守る日」とする県民運動を強く推し進めることを誓い合いました。

事故体験保護者の声

肝に銘じた安全運転

富平昌宏さん(36歳 高砂町)

私の次女は6歳で幼稚園に通っています。昨年9月降園時に幼稚園から出て間もなく乗用車に右足首をひかれて骨折、2ヵ月の重傷を負いました。

事故の状況は、道の向側にいた友だちが「由貴子ちゃん」と呼んだので、止まっていた車の後から道を横切ろうとし、通過中の車にひかれたのです。事故の知らせを聞いたとき私は血の気のうせる思いがしました。



へ駆けつけました。

由貴子は青い顔をして寝ており、足は皮が切れ、タイヤの跡がくっきりとついています。

手術は約1時間かかりましたが、このときほど時間を長く感じたことはありません。「どうか元どおりに治りますように」と祈りながら手術

「どうぞ軽傷であってほしい」と祈るとともに、「なぜ幼稚園の前で、しかもスクールゾーン内でこんな事故が起きたのか、だれがひいたのか」等々が頭を駆け巡り、一目散に病院

室の前で待機していると、私たち家族と同じようにしょんぼりと青い顔をした見知らぬ男の人が立っています。私は「この人が運転者だな」と直感しました。今の今まで「だれが娘をこんな目に遭わせたのか」と加害者に憤りを感じていましたが、この姿を見た途端、この人も由貴子や私たち家族と同様に苦しんでいる被害者だと思いました。

幸い由貴子は後遺症もなく元気になり、この冬はミニスキーで友だちと飛び回っています。事故の主な原因は娘の飛び出しと、自動車の徐行違反です。私も自動車を運転する身、この事故があってから「運転は慎重の上にも慎重を期す」を肝に銘じ実行しています。

交通マナーは大丈夫？

まず知ろう 幼児の特性

共に歩いて体で会得

幼児や低学年児の交通事故を防ぐには、親が子供の特性をよく理解し、キメ細かく無理のない指導をしなければなりません。

その特性としては次のようなことが挙げられます。
①1つのものに注意が向くと、周りのものが目に入らない。

道路上で遊びに夢中になっているときには、車が近づいても気がつき

ません。自分の持っていたボールが道路にころがったときや向こう側から声を掛けたりした場合、他のものは目に入らず走り出します。

②ものごとを単純にしか、理解出来ない。

自分が黄色い小旗を挙げれば、車は必ず止まってくれるものと思込

んでいます。信号が青になると、車の停止を確認しないまま一目散に走り出します。

③抽象的な言葉だけではよく理解出来ない。

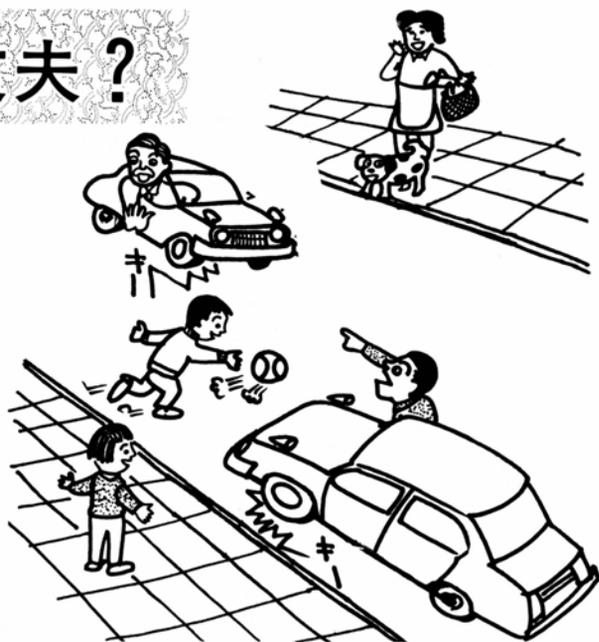
「あぶないヨ」とか「注意しなさいヨ」という抽象的な言葉だけでは具体的な行動と結びつけて理解することが出来ません。

④大人のまねをする。

信号を無視して道路を横断している大人があると、すぐまねます。大人のように周囲の状況についての判断力がありませんので、たいへん危険です。

⑤子供は感情に動かされる。

何かうれしいことがあると気持ちが浮き浮きして落ち着きがなくなり、反対に叱られると、そのことで頭がいっぱいになり、周りに注意をしな



いで道路を横切ったり、歩いたりします。

これから1ヵ月間にぜひ体得させなければならないのは①安全な歩き方②安全な横断の仕方③信号の意味と見方④踏み切りの渡り方⑤天候の悪いときの特別安全通行⑥乗り物の安全な利用——などです。

特に幼稚園や保育園へ幼児を通わせる方は、親子で何回も通園路を歩いて、交通マナー、知識を体で覚えさせましょう。

事故契機に交通指導

大輪浩治さん(44歳 大和町)

昨年6月1日のことでした。次男の昌俊(小2)が学校から帰ると小使い50円を持って「お父さん中村君の所へ遊びに行ってきます」と家を出ました。

数秒たつたうち家の前で「ドスン」と鈍い音がしたのであわてて外へ出て見ると、わが子が車に跳ね飛ばされて、前に止めてあった車の下にくらっていました。

昌俊の顔は死んだように青ざめ、所々に血がにじんでいます。

すぐに病院へ駆け込み診断を受けた結果、左肩の骨折ですぐ手術との



ことです。ベットの上の昌俊の右手にはまだ50円硬貨がしっかりと握られており、一層の痛々しさを感じさせました。

そのころ店を改装していたため、いろいろな物が視野を狭くしていましたが、主な原因はやはり子供の飛び出しです。落ち着いて右、左、右を確めていたならばこんな事故には遭わなかったと思います。

幼児や低学年の児童の事故は、ほとんど家の周り500m以内で起きています。

家の近くという事が子供に気の緩

みを与えるのでしょうか。

10年前、長男公康も2歳のとき事故に遭い、ようやく一命を取り留めました。

恐しい経験をしたため、なんとか子供の事故をなくしたいと微力ながら、昭和49年から交通指導員をお引き受けしています。

街頭に立っていると、いつも「おはよう」と明るいあいさつをしながら登校、通園する子供たち。

このかわいい子供たちを交通禍から守るのは親の努めです。事故ゼロを目指して、みんなでがんばりましょう。

商品は地元で

キノコ
づくり

エノキダケ

1日、70キロを出荷

オガクズと米ヌカが原料

二組合特産目指す

苦勞実り、生産に自信

冬のなべ料理に欠かせない純白のエノキダケ。

この生産を本格的に始めたのが、木本の穴田与一さん(60歳)ら5人グループの「大野のき茸生産組合」です。

完備された工場では毎日70^キロが生産され、福井の市場へ出荷されています。原料はオガクズと米ヌカ、こ

れに湿度70~80%を加えて、800 ccのプラスチック製の栽培ビンに入れカマで殺菌します。

その後、エノキダケの菌付けをして冷却、培養、菌かき、芽出し、抑制栽培など多くの行程を経て、約2ヵ月で13~15^キのエノキダケになります。

人まねは通用しない

穴田さんらがエノキダケの生産を始めた動機は、市内に原料のオガクズが豊富なこと、年中生産が出来て農業と両立出来ること、さらに需要が年々多くなっているのが将来性がある——などの理由からです。

第2次林業構造改善事業の補助を受け、昭和51年には1,453万円で鉄骨平屋建て330平方^メの建物を造り52年は1,015万円でオガクズと米ヌカを交せる機械や殺菌かまなどを買入れ、昨年8月から試験生産を始めました。

何しろ素人ばかりの集まりである



出来栄えを検査する穴田与一さん

ため、本場の長野県や県内では福井市、敦賀市などへ泊まり込みで技術習得に出掛け、それをまねてやってみましたがうまくいきません。

特に、培養ビンに菌がうまく繁殖しないので芽出しが思わしくなく、最も大切な過程で悩み続けました。

穴田さんは「ここ半年間は本当に苦勞しました。いろいろ研究した結果、原因は酸素不足であることがわかりましたので、さっそく施設の改善をしました。エノキダケはその土地の温度と湿度にたいへん敏感ですので、所によって栽培の仕方が随分違います」と、体験から編み出した木本方式に自信を得た様子。

「でも、まだ先進地に比べると栽培ビン当たりの生産量は問題になりません。私の所では1ビン当たり平均100^キで成績のよいのが150^キです。これをほとんど150^キまでに増やす研究を進めると同時に、早く5万本栽培を実現したい」とエノキダケ生産に並々ならぬ意欲を燃やしています。

適地適産、という言葉がありますが、市内には大野の自然環境を生かした産物を開発しようと、多くの人々がいろいろな試みを手掛け、研究しています。

この中で「キノコづくり」に取り組む2つの話題「エノキダケ」と「シイタケ」の生産にスポットを当ててみました。



シイタケ

◀ 植菌作業に追われる松田由美津さん
▼ 「収穫が楽しい」と話すすみ子さん、喜代美さん



芽を出し、生長が楽しみ

課題は市場へ安定供給

松田由美津さん（48歳、阿難祖領家）はシイタケ栽培のベテランです。まだ雪深い裏庭の一角に約100平方メートルのビニールハウスがあり、その中には1,500本のほだ木が所狭しと並べられています。

室内に1歩入りますとかがわしいキノコの臭いが漂い、数分のうちに額が汗ばむ温かさ。摂氏25度の加温に誘われて、どのほだ木からもかわいいシイタケがにょきにょき顔を出しています。これを収穫するのが奥さんのすみさんと長男由加津さんの奥さん喜代美さんの係。直径5センチ程に大きくなったものを選んで摘み取っていきます。「ことしは昨年夏の異常な日照りが原因して成績が悪いんです。でも、日一日と大きくなり、新しい芽を出すシイタケを見ているのは本当に楽しいです」と2人は目を細めていました。

温度、湿度に敏感な菌

由美津さんは冬の間シイタケのほだ木づくりと植菌（木にシイタケの

菌を植え付ける）に追われています。晴れの日には1本そりでナラ、クヌギなどの原木の切り出しのため、朝早くから山へ出かけ、雪や雨の日には植菌作業をして、シイタケ栽培への準備に余念がありません。

松田さんがシイタケ栽培を始めたのは10年前、農業片手間の土方や長期間家庭を空けるとうじ（杜氏）の生活に疑問をもち「農業者は農業で生きるべきだ。それには農閑期、特

に冬生産出来る仕事はないか」といろいろ考え、数人の仲間と共にシイタケ栽培を始めました。

「始めた当時はキノコがおもしろいほどよく出ましてね。シイタケ栽培はこんな簡単なものかと高をくくっていました。しかし、経験を積むにつれてわからなくなり、今は難しいの一言です。気温と湿度に敏感な菌ですから、阿難祖の気温、湿度は阿難祖の者でないとわかりません。

他地の資料は手本にならないのです」と語る一言一言には年輪がにじみ出ています。

奨励したい中温種

現在市内19人の生産者で「大野しいたけ振興会」をつくり、松田さんはその組合長をしています。

冬期間生産している「低温種」のシイタケは、各農家で100㍻ずつポリパックに詰められ集荷場へ集められます。

それを箱詰めにして「大野しいたけ振興会」の生産品として、1日約120㍻を福井の市場へ出荷しています。

「大野産のシイタケもようやく市場で認められるようになりました。これからは1年をとおして市場へ安定供給することが課題です。それには中温種のシイタケ栽培を採り入れていかなければなりません」とこの道にかける話題は尽きません。

南六呂市に酪農団地

市内で3つ目、最大の規模

市内で3つ目の酪農団地が南六呂師に出来ます。

奥越酪農生産組合（稲津孝彦組合長ら6人）は円山公園東側、県道南六呂師下荒井線沿いの県営奥越高原牧場の一角2㍻の土地を借り受け総事業費3億8,300万円で6棟の牛舎等を建設します。

敷地造成はすでに昨年12月から始めており3月までに完成。

4～9月は牛舎3,072平方メートルたい肥置き場、ポンプ室、管理室などの付帯施設4,039平方メートルを造ります。

計画では1棟に40頭のさく（搾）乳牛を飼育する市内で最も大きな団地になり、10月からは6人の組合員が1棟ずつ受け持ち、独自の経営をするシステムが採られます。

昨年の観光客は72万人

スキー客やや減る

市はこの程「昭和52年の観光客調査」の結果をまとめました。

昨年1年間の観光客は71万9,000人で前年より9,000人多く、主な観光地別では、勝原27万1,000人、六呂師高原23万5,000人、市内観光越前おおのおどり11万人、九頭竜峡3万8,000人、森山3万人となっています。

勝原、六呂師は前年に比べ1年をとおして客数が増えています。反対に森山、市内観光越前おおのおどりは減りました。

この客のうち、県外からは、11万9,000人で関西4万7,000人、中京4万人、北陸2万2,000人となっており、半数は勝原、九頭竜峡への客でした。

利用目的別にみますと、依然として多いのは自然を求めるとハイキング、登山、キャンプで50万2,000人と全体の70%を占め、スキーは3スキー場合わせて17万5,000人で前年をやや下回りました。

大野市の観光客は全体の92%が日帰り客であるため、客数の割には市内での消費額は少なく、年間総額は3億9,999万円、1人当たり208円、宿泊は3,377円になっています。



雪まつりのもちつき大会(2月12日六呂師スキー場)

市民憲章の文案できる

自然と伝統を強調

市民憲章制定委員会ではこのたび憲章案を次のとおりまとめました。

この文案に対する市民のご意見をお待ちしています。あて先は大野市天神町1-1 市教育委員会社会教育課内市民憲章制定委員会事務局(6-1111内線405)です。

〈市民憲章案〉

九頭竜川の上流にある大野は、清

まであります。

「くじは神慮なり」すなわち神のおぼしめしであるという考え方がわが国にはあったといわれています。

鬼子母神の信者にとって、今でも

このくじ箱を振ることが毎日の心の寄り所になっています。

このくじ箱も本も江戸時代末期のものですが、盛んに使用されたため本は破損が著しく、現在は昭和6年発行の同一内容のものが、くじ

箱のかたわらに置かれ使用されています。

らかな空気と水に恵まれ、みどり豊かな自然にはぐくまれてきました。

純朴さのなかにも

大野丸の偉業、蘭学への情熱などにみられる進取の気象と雪国特有のねばり強さとして、今日の発展をみました。私たちは、こうした自然と伝統を受け継ぎ、さらに幸せなまちづくりを願って、市民憲章を定めます。

- 1. みずみずしさあふれるまちに (自然環境)

私たちは、いつまでも自然を守り美しい郷土をつくります。

- 1. 小さな芽が伸びるまちに (教育、文化)

私たちは、伝統に学び、新しい文化を育てます。

- 1. 大きくはばたくまちに (産業、経済)

私たちは、働くことに喜びをもち、郷土の発展につとめます。

- 1. あたたかい心のかようまちに (家庭、社会)

私たちは、健康で幸せな家庭をつくり、親切の輪を広げます。

- 1. 清潔なやすらぎのまちに (社会環境)

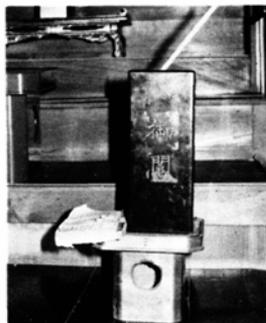
私たちは、まちづくりに進んで参加し、明るく住みよいまちを築きます。



⑤大雄院

くじ箱(くじばこ)

大雄院(錦町)内の鬼子母神堂に「奉納御間、施主紺吉」と彫られたおみくじ箱があります。これを振ると上の小穴から竹クシのくじ棒が出、その番号に合わせて「法華経御間感応籤」という本の頁を読んで、大上吉・大吉・吉・半吉・凶・大悪と占うのです。96番



行動でくらしを守る

消費者グループ連協が発足



七団体から七十二人の代表が参加して開かれた設立総会

ことしは野菜やウイナーソーセージの共同購入検討会、清涼飲料水製造業者との懇談会、会報の発行などを計画しており、いのちとくらしを守る。婦人の運動が本格的にスタートしました。

主な役員は次のとおりです。(敬称略)

会長吉田サキノ(市婦人会連絡協議会) 副会長遠藤つ与子(安全なくらしを求める会) 会計松井欣子(同) 書記坪田好子(大野生活学校) 松村長子(大野市農協婦人部)

「賢い消費者から行動する消費者」をスローガンにした大野市消費者グループ連絡協議会の設立総会が、2月10日市役所で開かれました。

総会には市婦人会連絡協議会、大野・上庄農協婦人部、安全なくらしを求める会、大野生活学校、春日2丁目西婦人部、小山野菊グループの7団体から72人の代議員が出席し、会則、事業計画、予算、役員などを決めました。

青少年とともに進む

春の市民運動

愛の一声をかけよう

3月下旬～4月上旬は卒業、進学就職など青少年の生活に変化が多くともすると、過度の解放感や精神的動揺が起きやすい時期です。

不幸な青少年を出さないため、不良行為を知ったら、勇気を出して「愛の一声」を掛けましょう。

上庄葉たばこ生産組合

ビニールハウスで共同育苗

上庄たばこ生産組合(杉本憲治組合長)はことしから組合加入41戸分の葉タバコの苗を共同で育てるため2月に上庄農協カントリーエレベーター東側に育苗施設を造りました。

5.4畝に18畝のビニールハウス13棟を780万円で建て、2～4月は、15.1畝分のたばこの苗を育てています。

この育苗が済みますと、4～5月は水稻の苗40畝分、6月はイチゴの苗15畝分を育てる計画です。



雪を割って建てられたハウス

水道のはなし

⑫水資源と上水道

古来わが国では「湯水のごとく」と言われ、水はどこにでもあるものと考えられてきました。

特に、地下水に恵まれた大野市では、つい最近まで「水はタダ」という観念が市民全体の中にありました。

生活様式が高度化し、工業、農業などの生産の向上に伴って使用量が多くなり、当然渇水期には水不足が起こります。しかし、水の年間収支をみますと、北陸地方に降る



雨は364億リットルといわれていますが、実際に利用しているのは、工業用水8.2億リットル、農業用水27.6億リットル、家庭用水2.7億リットルで降雨量の10分の1強です。

洪水その他で187.7億リットルも海へ流出しているのですから、これからの課題はいかに上手に貯水し、有効利用するかにかかっています。

利用は市民みんなが公平にかつ安全な方法がとられなければなりません。特に飲料水については、安定した衛生的な水が供給されなければならない、この条件を満たしその上公平にコントロール出来る方法は上水道より外にありません。



◆国民年金保険料改正

国民年金法の改正で、4月から保険料が次のとおり引き上げられます。
定額 月額 2,200円→2,730円
付加 〃 2,600円→3,130円

◆青年のつどい

〈日 時〉3月18日(土)午後3時～19日(日)午後4時
〈場 所〉県立奥越青少年の森
〈対 象〉市内の青年 100人
〈内 容〉キャンドルのつどい、映画、グループ討議、ダンス
〈参加費〉500円
〈申し込み〉3月10日までに市教育委員会または近くの公民館へ

◆し尿浄化そう設置者講習会

し尿浄化そうが著しく普及しています。使用状態や維持管理が悪い場合水質汚染源となり、地域住民とのトラブルの原因になります。
適正な管理のため、次のとおり講習会を開きますので、し尿浄化そうを設置されている人は必ずご出席下さい。

- 3月16日(木) 市役所で 糸魚町、高砂町、天神町、明倫町、泉町、城町、元町、本町の 人
3月23日(木) 市民会館で 有明町、美川町、中狭町、美里

町、清和町、吉野町、中荒井町 3丁目の人
3月27日(月) 下庄公民館で 要町、水落町、中野町、新町、新栄町、中荒井町1・2丁目、錦町2区の人
時間はいずれも午後1時30分から

◆交通災害共済の切り替え

安い掛金であなたを守る交通災害共済は1年加入で、3月中が昭和53年度共済の受付期間です。

まだ加入されていない方はこの機会に、加入している人も切り替えが必要ですから、各区長さんへ申し込んで下さい。

この共済は、1人年額 450円で、全治1週間の傷害1万円から、死亡100万円までの8段階の見舞金が出ます。



◆登記無料相談

4月1日は「表示登記の日」です。この日にちなんで土地、建物、会社などの登記無料相談が次のとおり開かれます。ご利用下さい。

〈日 時〉4月1日(土)午前10時～午後3時
〈場 所〉有終会館

◆市民卓球大会

市民卓球大会が3月26日(日)午前9時から開成中学校体育館で行われます。学童の部、経験者の部、未

経験者の部があり、小学生以上の方ならどなたでも参加出来、特に未経験者を歓迎します。希望者は3月23日までに市教委体育課(6-1111内線406)へ申し込んで下さい。

◆卓球教室

卓球教室が3月18日(土)19日(日)の両日有終会館で、一流の講師を招いて開かれます。受講は無料、小学4年生以上の方ならどなたでも参加出来ます。希望者は3月16日までに市教委体育課へ申し込んで下さい。

◆固定資産課税台帳の縦覧

固定資産課税台帳の縦覧を3月1～20日市税務課で行っていますのでお知らせします。

◆子供劇場公演

〈日 時〉3月28日(火)午後2～3時30分
〈場 所〉市民会館
〈内 容〉人形劇「サキと山姥」
〈料 金〉子供劇場入会希望者は1人600円、当日のみの方は、1,600円

◆第2回特別弔慰金請求31日まで

戦没者遺族に対する第2回特別弔慰金の請求期限は3月31日までです。まだ手続きをしていない人は、早く市福祉事務所でして下さい。
請求出来るのは、日華事変以後の戦没者の家庭で、昭和50年4月1日現在で公務扶助料、遺族年金、遺族給与金の受給者がいない遺族です。

病気の予防と早期発見・治療を喚起するために、各種の相談・検診が幅広く行われている。国民の関心を深めるために設定されたものに耳の日(三月三日)むし歯予防デー(六月四日)鼻の日(八月七日)目の愛護デー(十月十日)などがある。▼ことしの耳の日は「よい耳、よい声、楽しい生活」というスローガンのもとに「学童と中耳炎」をテーマとして、全国各地で聴力保護や障害防止に関する講演会などが展開される▼当市の学童の場合、学校・医師会・学校保健会等の先生方の指導と学童の関心の深まりによって、今のところ中耳炎に悩む者はほとんどないそう。喜ばしい次第▼言葉を正しく聞き、正しく話すことは、文明社会人にとって欠くことの出来ない重要事である。しかるに案外、聴覚障害に無関心で必要な処置を怠り、知らず知らずのうちに聴力障害者になる人も相当あるというから恐ろしい。お互に十分注意し合いたい▼また、騒音や空気の汚染などから生ずる耳やのどの疾病についても認識を高めるとともに、その予防、障害の早期発見・治療に努めたものである。特に幼児の場合は話し言葉に大きな影響を受け、知能の発達に支障を来たすことがある▼「ミミの日」を「ミミよりな話」としてこの機に「耳を大切にしよう」「障害者に温かい手をさしのべよう」と市民総ぐるみの理解と協力を高めたい。(M生)



発行 福井県大野市 編集 秘書広報課
(電話) 〇一1111 印刷 柳松浦印刷